

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成20年9月26日(金) 6校時
学級 2年(男13名 女17名 計30名)
指導者 佐藤千砂

- 1 単元名 ようすを考えて読もう 【読む】 (光村図書 2年下 P.4~20)
教材名 「お手紙」

2 児童と単元について

(1) 児童について

児童はこれまで、「ふきのとう」「スイミー」(2年上)など、物語の学習では、視写や音読を通して、場面の様子や登場人物の気持ちを想像することを中心に学習を進めてきた。

その結果、児童は、視写した文から様子を想像できる言葉を探して線を引いたり簡単な書き込みをしたりする活動を通して、言葉に着目すれば場面の様子を詳しく読み取ることができることに気が付いてきている。また、みんなで出し合ったいろいろな様子の中から、叙述に即したものはどれかを選び取る児童も出てくるようになった。登場人物の気持ちを書く活動でも、読み取った内容をもとに、自分の言葉で吹き出しに書くことができるようになってきた。さらに、暗記するまで物語を覚え、好んで音読に取り組む児童や、動作化や劇化をしながら、想像した場面の様子を表すことに楽しさを感じている児童が増えてきている。しかし、自分が考えたり想像したりしたことを話す段階になると、特定の児童に限られ、多くの児童が言葉からイメージを膨らませて豊かに話をするまでには至っていない。また、大きな声ではっきりと音読することはできているものの、読み取ったことを音読に生かそうとする児童は少ない。

授業での学び合いでは、多くの児童が、友達の考えに興味をもって聞くとともに、自分の立場をはっきりさせて考えを発表することができる。また、その考えに理由を付け加えたり他の言葉で言い換えたりすることができる児童も増えてきている。さらに、友達の考えから、自分が分かっていく喜びを見出す児童も見られるようになってきている。

(2) 教材について

本単元は、第1・2学年の「読むこと」の領域に関する目標「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」を受け、登場人物の気持ちや場面の様子などについて想像を広げながら読み取る力を育てることをねらいとしている。

本教材「お手紙」は、がまくんを思ふかえるくんのさりげないやさしさと、一通の手紙を通して心が触れ合った、二人のほのぼのとした温かい友情が描かれている作品である。日常生活で手紙を出す楽しみや受け取る喜びを経験してきている児童は、本教材の「手紙」に関心をもつであろう。また、友達との心の交流を、登場人物に同化したり共感したりして、興味をもって読み進めていくと考える。この作品は「ふたりとも、かなしい気分で、げんかんの前にこしを下ろしていました。」から、「ふたりとも、とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。」になるまでの推移が、かえるくんとがまくんの会話中心で展開していく。会話文の中には、それぞれの登場人物の気持ちや人柄が表れているのが特徴である。会話文を音読したり動作化したりすることが好きな児童にとって、それらの活動を通して、書かれている様子をとらえることができるとともに、登場人物の気持ちについて想像を広げていくことができる。

以上のことから、この作品は、楽しみながら物語に親しみ、場面の様子や登場人物の気持ちについて想像を広げて読むことに適した教材であると考えられる。また、「お手紙」の作者アーノルド＝ローベル自身が描いた挿絵も、二人の動作や表情などをもとに、心の動きを理解する助けや、場面の様子などを豊かに想像する手がかりとなるだろう。

(3) 指導について

この単元の指導構想は以下の通りである。

第一・二次では、初発の感想を生かしながら学習課題作りを行う。初発の感想は、物語のおもしろかったことや好きなところを書かせるほかに、「どうしてかえるくんは～ことをしたんだろう。」などという、登場人物についての疑問を書かせ、それをもとに、場面ごとの学習課題を設定していきたい。ここで場面をいくつかに分けることとなるが、粗筋を把握した上で、五つの場面に分けていく。また、ペープサート劇をみんなでつくることとし、劇をつくり上げるために、場面の様子や登場人物の気持ちをくわしく理解しようという目的意識をしっかりとめ、学習への意欲を持続させるようにする。

第三次では、場面の様子や登場人物の気持ちについて、想像を広げながら読み取った後、登場人物の気持ちが表れるように、音読の工夫を考えるという単元構成とした。これは、読み取

りの学習を土台とした次時の音読の工夫で、どうしてそのように読もうと思ったのかを学び合
いの中で交流することにより、さらに登場人物の様子や気持ちの理解を深めていきたいと考
えたからである。また、児童はこれまで、様子や気持ちを読み取るために音読する活動は行っ
てきているが、音読で気持ちを表すことには取り組んでいない。今回はペープサート劇を意
識させることで、目的意識を持ち、気持ちを表す読み方の工夫を考え表現させていきたい。

読み取りの学習は、会話文に焦点を当て進めていく。特に1・3・4の場面は、がまくん
とかえるくんの二人の会話文から、お互いの気持ちやその気持ちを裏付ける思いについて読
み取る。まず、二人組の役割読みなどで、登場人物同士の会話の様子をつかませるととも
に、会話文の叙述から、どうしてこんなことを言ったのか、どんな気持ちなのかを考えさ
せるようにし、登場人物の会話の様子をもとに、それぞれの気持ちについて想像を広げて
読み取ることができるようしていきたい。4の場面では、会話文の中にかえるくんの書
いた手紙の文章も含まれる。手紙の内容は、2年生の児童には少々難しい言葉で表現され
ているが、児童の学び合いを通して理解させていきたい。場面ごとのまとめについては、
想像したがまくんやかえるくんの気持ちを、登場人物になりきって吹き出しに書か
せていく。この吹き出しには、気持ちを裏付ける思いを自分なりの言葉で書かせる
ていきたい。

第四次では、第三次で学習したことをもとに、ペープサート劇をみんなでつくり上
げる。登場人物の気持ちにふさわしい会話文の音読を、これまでの学習をもとに再
度グループで話し合い、豊かに表現させていきたい。

さらに、第五次では、主語と述語についての学習を進める。「お手紙」は、翻訳
であるためか、主語と述語が書かれている文章と、そうではない文章が混在し、
会話や行動の主体が分かりづらい。そのことから、児童は、逆に主語と述語を
しっかりと表記する大切さについて、読み取りを通して感じるであろう。「お
手紙」の学習を通して気付いた主語、述語の働きを、再度、言語事項とし
て取り上げ理解を深めるとともに、主述のしっかりとした文章を書く力に
つなげていきたいと考える。

【研究仮説に関わる指導の工夫】（○：単元全体、●：本時）

- 読み取りの学習を土台として音読の工夫を考えると単元の指導計画を組むこと
により、叙述をもとに音読を工夫し表現することができるようにする。
（考える力・表す力）
- 役割読みなどの音読活動を取り入れることで、登場人物の様子を叙述をも
とに想像を広げて考える力を高める。（考える力）
- 場面の中で大切な文章を視写し、言葉に着目して読み取らせることで、
一つ一つの語句や表現に注意しながら叙述に即して考える力や、叙述を
根拠として自分の考えを話す力を高める。（考える力・表す力）
- 登場人物の気持ちを吹き出しの形式で書かせることで、想像したことを
自分なりの言葉で書くことができるようにする。（表す力）
- 学び合いの場面で、友達と同じ考えでも自分の言葉で話させたり、違
う言葉で言い換えさせたり、友達の考えを補ったりすることを通して、
互いの考えを理解できるようにする。また、確かな読み取りにつなげ
るために、根拠を付け加えさせたり、対話を通して自分の考えを深め
させたりする。（共に高まろうとする態度）

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- 自分なりに場面の様子や登場人物の気持ちについて想像を広げたり、
声に出して表現したりしながら、楽しんで読もうとしている。

(2) 読む能力

- 登場人物の様子や気持ちについて想像を広げながら読むことができる。
(読むこと ウ)
- 登場人物の気持ち表れるように、読み方を考えて音読することができる。
(読むこと エ)

(3) 言語についての知識・理解・技能

- 文の中における主語と述語との関係を理解している。（言語事項 エ(ア)）

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「お手紙」の登場人物の様子や気持ちを進んで考え、楽しく音読したり、手紙を書いたりしようとしている。 ○ ペープサート劇を楽しいものにしようと、進んで準備やグループでの練習などをしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ がまくんやかえるくんの行動や会話文から、場面ごとの様子や気持ちについて想像を広げながら読んでいる。 ○ 場面の登場人物の様子に合わせて、がまくんやかえるくんの気持ちが表れるように、読み方を考えたり音読の工夫をしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「何が（だれが）」が主語、「どうした・どんなだ、なんだ」が述語であることを理解している。 ○ 主語と述語が整った文を書いている。

5 指導計画（19時間扱い）

段階	時	主な学習内容（○）と学習活動（・）	評価規準	学び合いの重点
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「お手紙」の感想をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書いたりもらったりした経験を話し合う。 ・全文を読み、初発の感想を書き、発表する。 ○ ペープサート劇をすることを知る。 	関 おもしろかったところや好きなどころについて感想をもっている。 (発表・ノート)	お互いの感想を交流する活動
第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 粗筋を話し合い、場面分けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・どの会話文を、だれが言っているかを考えながら全文を音読する。 ・挿絵をもとに場面の移り変わりをとらえ粗筋を話し合い、場面分けをする。 	関 挿絵をもとに、どんな話を簡単に話している。 (発表) 言 会話や行動の主体「だれが」を考えて発表している。 (発表・印)	挿絵と文章をもとに粗筋を把握する話し合い活動
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題を設定し学習の計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・感想や粗筋をもとにして、場面ごとの学習課題を決める。 	関 感想をもとに学習課題をつくらうとしている。(発表)	
第三次	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「一の場面」を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・お手紙が来ないがまくんと、その姿を見ているかえるくんの、それぞれの悲しい気持ちを想像する。 	読 二人が悲しんでいる理由やその様子について、想像を広げながら読んでいる。 (発表・吹き出し)	二人の会話文をもとに様子や気持ちについて話し合う活動
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ がまくんの悲しい気持ちが表れるように、読み方の工夫を考える。 	読 がまくんの会話文を、気持ちが表れるように工夫して音読している。 (発表・音読)	音読の工夫について話し合う活動
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「二の場面」を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・かえるくんの言動について話し合い、がまくんを思いかえるくんの気持ちを想像する。 	読 かえるくんが手紙を送る様子やその理由を、想像を広げながら読んでいる。 (発表・吹き出し)	かえるくんの言動をもとに様子や気持ちについて話し合う活動
	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ かえるくんの気持ちが表れるように、会話文の読み方の工夫を考える。 	読 かえるくんの会話文を、気持ちが表れるように工夫して音読している。 (発表・音読)	音読の工夫について話し合う活動

	8	○ 「三の場面」を読み取る。 ・二人の言動を対比し、お手紙が来るだろうと何とか励ますかえるくと、すっかり悲観的になっているがまくんの気持ちを想像する。	読 二人の言動を対比し、それぞれの様子について、想像を広げながら読んでいる。 (発表・吹き出し)	二人の会話文をもとに様子や気持ちについて話し合う活動
	9	○ 二人の気持ちが表れるように、会話文の読み方の工夫を考える。	読 かえるくとがまくんの会話文を、気持ちが表れるように工夫して音読している。 (発表・音読)	音読の工夫について話し合う活動
	10 本時	○ 「四の場面」を読み取る。 ・お手紙の内容を知るがまくんと、その姿を見ているかえるくんの、それぞれの幸せな気持ちを想像する。	読 二人の幸せな理由やその様子について、想像を広げながら読んでいる。 (発表・吹き出し)	会話文をもとに様子や気持ちについて話し合う活動
	11	○ 二人の気持ちが表れるように、会話文の読み方の工夫を考える。	読 かえるくとがまくん会話文を、気持ちが表れるように工夫して音読している。 (発表・音読)	音読の工夫について話し合う活動
	12	○ 「五の場面」を読み取る。 ・お手紙が届いたがまくんのうれしい気持ちを想像する。 ○ これまでの学習を振り返り、登場人物にあてて手紙を書く。	読 手紙が届いたときのがまくんの様子を、想像を広げて読んでいる。 (発表・吹き出し) 関 手紙を書く相手を決め、読み取ったことをもとに、手紙を書こうとしている。 (プリント)	本文をもとにがまくんの気持ちについて話し合う活動
第四次	13	○ 学習したことを生かして、ペープサート劇をする計画を立てる。 ・好きな場面を選んで、グループに分かれる。 ・役割分担をし、必要なものを用意する。	関 楽しい劇にしようとして進んで準備をしようとしている。 (観察)	
	14 15	○ 学習したり自分たちで考えたりした工夫を実際にやってみて、劇をつくる。 ・グループごとに練習をする。	読 場面の様子に合わせて音読の工夫をしている。 (観察・発表)	読み取りをもとに、音読の工夫を考えたり見直したりする話し合い活動
	16	・発表する。		(グループ)
第五次	17	○ 主語と述語の意味と関係を理解する。 ・「お手紙」の学習の中で、会話や行動の主体の「だれが」を考えながら読んだことを思い出す。 ・教科書を見て、主語と述語の意味と関係を知る。	言 「何が(だれが)」が主語、「どうした・どんなだ、なんだ」が述語であることを理解している。 (発表・プリント)	
	18 19	○ 主語と述語の整った文をつくる。 ・教科書の絵をもとに文を作って書く。 ・作った文を発表し合う。	言 主語と述語が整った文を書いている。 (発表・プリント)	

6 本時の目標と展開

(1) 目標

がまくんとかえるくんの会話の内容やお手紙を待つ様子から、手紙の内容を知り感動するがまくんとそれを見て喜ぶかえるくんのそれぞれの幸せな気持ちを読み取ることができる。

(2) 展開

過程	学習内容と学習活動 (◎)	時間	教師の支援 (◇) と評価 (◆)	備考
つかむ	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どうして、ふたりとも、しあわせな気持ちですわっていたの だろう。</p> </div>	5	<p>◇ 「三」の場面で書いたまとめの吹き出しを読ませることにより、手紙が来るだろうと何とか励ますかえるくんと、すっかり悲観的になっているがまくんの気持ちを想起させる。</p> <p>◇ 「一」の場面では二人とも悲しい気分であったのが、本時の場面では二人とも幸せな気持ちになったことを想起し、その理由を考えていくことを確認して学習への目的意識をもたせる。</p>	<p>学習の足跡</p> <p>絵課題黒板指示棒ノート</p>
ふかめる	<p>3 学習場面を読み、読みの視点を話し合う。</p> <p>4 学習場面を読み深める。</p> <p>◎ お手紙をかえるくんが出した事実を読み取る。</p> <p>◎ かえるくんの手紙の内容を読み取る。</p>	30	<p>◇ 学習場面の音読は指名読とする。がまくん、かえるくん、地の文と役割読みをさせることで、場面の様子を想像できるようにする。また他の児童は、読みの視点を考えながら黙読することを指示する。</p> <p>◇ 話し合いを通して、以下の2点を把握させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がまくんが幸せな気持ちになったのは、かえるくんが出した手紙の内容が要因であり、その手紙を詳しく学習する必要があること。 ・ かえるくんが幸せな気持ちになったのは、自分の出した手紙のことを聞いたがまくんの様子が要因であり、がまくんの会話を詳しく学習する必要があること。 <p>◇ 「どうしてまだ届いていない手紙のことを、がまくんは知ることができたのか。」を考えさせ、かえるくんが、がまくんの様子を見かねてお手紙の内容を話してしまったことを把握させる。</p> <p>◇ かぎや句読点、助詞に気をつけて手紙文をノートに正しく視写するよう助言する。</p> <p>◇ 手紙文の主述や内容を確認するとともに、「親愛なる」「親友」という言葉から、かえるくんのがまくんに対する温かい友情の思いを読み取らせる。</p>	<p>紙板書</p> <p>ノート</p>

<p>◎ お手紙の内容を聞いたときのがまくんの様子や気持ちを想像する。</p> <p>◎ かえるくんも、幸せな気持ちになった理由を話し合う。</p>		<p>◇ うまく説明できない場合には、ペアまたはグループで意見を交流させるようにする。</p> <p>◇ 「とてもいいお手紙だ。」と思ったのは、どの言葉からなのかを考え、サイドラインを引かせるようにする。「親愛なる」「親友」という言葉から、自分を大切に思ってくれる友達がいることに感激するがまくんの気持ちを想像させるようにする</p> <p>◇ がまくんの感激の深さを、「ああ。」の表現からも感じ取らせる。</p> <p>◇ がまくんが幸せな気持ちになった理由を、ここまでの読み取りをもとに、児童の言葉で板書にまとめるようにする。</p> <p>◇ 手紙を書いたり、励ましたりしたかえるくんの前時までの様子を振り返ることで、がまくんの感動を自分のことのように感じて、幸せな思いで満たされたかえるくんの気持ちを想像させる。</p>	紙板書
<p>まとめ</p> <p>5 学習したことをまとめる。 ◎ 二人の幸せな気持ちを、本時の学習をもとに、想像を広げて書く。</p> <p>6 学習への取り組みを振り返る。</p> <p>7 次時の学習内容を確認する。</p>	10	<p>◇ 板書を振り返り、二人の気持ちが通い合っていることを把握させる。また、吹き出しに書かせることで、どの子もまとめることができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆読 二人の幸せな理由やその様子について、想像を広げながら読んでいる。 (発表・吹き出し)</p> </div> <p>◇ 本時の学習を、振り返りの視点の中から振り返らせる。</p> <p>◇ 次時の学習は、「四」の場面の音読の工夫をすることを告げる。</p>	<p>プリント</p> <p>学習の足跡</p>

(3) 具体の評価規準及び手立て

単元の評価規準 (評価方法)	具体の評価規準		努力を要すると判断された児童への手立て
	A	B	
<p>読 二人の幸せな理由やその様子について、想像を広げながら読んでいる。 (発表・吹き出し)</p>	<p>二人の思いの根拠を自分の言葉で豊かに表したり心の通い合いなどについて書いたりしながら、幸せな気持ちを吹き出しに書いている。</p>	<p>二人の思いの根拠を自分の言葉で表しながら、幸せな気持ちを吹き出しに書いている。</p>	<p>手紙文をもとに、がまくんが幸せになった理由を確かめる。また、がまくんを思って手紙を書いたかえるくんが、手紙の内容を知ったときのがまくんの言葉を聞いたら、どんな気持ちになるのかを考えさせる。</p>